

## 川崎病既往児の学校検診に関する小委員会報告

小委員長 神谷哲郎

顧問 川崎富作、大國真彦、草川三治

委員 佐藤哲雄、藺部友良、多田良勝義、原田研介、保崎純郎、中西重雄、  
中野博行、浅井利夫、尾内善四郎、清沢伸幸、馬場国蔵、加藤裕久

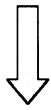
本年度本委員会は、川崎病既往歴を有する学童（児童・生徒）の検診について、検診方法の問題点を討議した。種々の環境条件にあるわが国各地で一律の検診方法を推奨するには、いささか無理がありはしないかという感触がえられている。各地の実状をふまえた検診についての具体的な提言は、本年度から継続して、来年度に完成させる予定である。

小委員会委員は全国各地で川崎病既往歴をもつ学童の検診に実際タッチしている方々が多いが、委員へのアンケートにもとずいて、川崎病既往児の学校検診における実態調査結果が、昭和58年度までまとまった。集計結果を表に示す。昭和54年度から川崎病の学校検診がおこなわれるようになり、検診対象者数は次第に増加している。検診年度が進むにしたがって、川崎病既往者の頻度が増加し、中でも確実な既往歴をもつものが増している。二次検診へよび出されるものは毎年高率である。冠動脈障害を認めた例の頻度は年度により若干異なるが、全体としてみると、157,930名の小学校一年生の中の既往確実例529例中24例（4.4%）であった。

### 川崎病検診実態調査

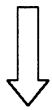
対象：小学校1年生

年度	検診対象者	既往確実	既往疑い	二次検診	エコー	冠障害	カテ例数
54年	13,840	20 (0.145%)	3 (0.022%)	19 (82.6%)	19 (82.6%)	0 (0%)	6 (26.1%)
55年	16,570	45 (0.272%)	4 (0.024%)	46 (93.9%)	46 (93.9%)	0 (0%)	10 (20.4%)
56年	21,196	51 (0.241%)	4 (0.019%)	51 (92.7%)	51 (92.7%)	1 (1.8%)	5 (9.1%)
57年	54,815	201 (0.367%)	5 (0.009%)	178 (86.4%)	120 (58.3%)	18 (8.7%)	51 (24.8%)
58年	51,509	212 (0.412%)	4 (0.008%)	175 (81.0%)	120 (55.6%)	5 (2.3%)	53 (24.5%)
合計	157,930	529 (0.335%)	20 (0.013%)	469 (85.4%)	356 (64.8%)	24 (4.4%)	125 (22.8%)



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



本年度本委員会は、川崎病既往歴を有する学童(児童・生徒)の検診について、検診方法の問題点を討議した。種々の環境条件にあるわが国各地で一律の検診方法を推奨するには、いささか無理がありはしないかという感触がえられている。各地の実状をふまえた検診についての具体的な提言は、本年度から継続して、来年度に完成させる予定である。

小委員会委員は全国各地で川崎病既往歴をもつ学童の検診に実際タッチしている方々が多いが、委員へのアンケートにもとずいて、川崎病既往児の学校検診における実態調査結果が、昭和 58 年度までまとまった。集計結果を表に示す。昭和 54 年度から川崎病の学校検診がおこなわれるようになり、検診対象者数は次第に増加している。検診年度が進むにしたがって、川崎病既往者の頻度が増加し、中でも確実な既往歴をもつものが増している。二次検診へよび出されるものは毎年高率である。冠動脈障害を認めた例の頻度は年度により若干異なるが、全体としてみると、157,930 名の小学校一年生の中の既往確実例 529 例中 24 例(4.4%)であった。